

シラバス参照

科目名	建築概論
科目名(英字)	Introduction to Architecture
ナンバリング	11CF13
年次	1年次
単位数	2
期間	前期
担当者	吉村 英祐(ヨシムラ ヒデマサ) 河野 良坪(コウノ リョウヘイ) 宮内 靖昌(ミヤウチ ヤスヨシ) 今川 光(イマガワ ヒカル)

授業のねらい・概要
この授業のねらいは、建築学科に入学したばかりの学生が、建築の魅力、多面性、奥深さなどを理解し、これから学んでいく多種多様な専門科目を相互に関連づけ、各自が明確な学習目標を立て、それに向かって主体的に専門科目を履修する姿勢を身につけることにある。そのために、美しく機能的で安全・快適な、環境負荷が小さい建築をつくるための設計・計画手法、環境制御技術、構造技術などの概要を、設計、計画、環境、構造の教員がリレー方式で、具体例をまじえてわかりやすく講義する。

授業計画

	テーマ	内容・方法等	予習／復習
第1回	ガイダンス	「建築」とは何か、建築における「用・強・美」の重要性など、建築に関するさまざまな事項の基本を学び、専門教育科目相互の関連を体系的に理解する。	予習: 授業のねらい・概要を理解しておくこと。(2時間) 復習: レポート提出に備えて授業ノートを整理するとともに、関連資料を収集しておくこと(2時間)
第2回	建築のかたちを決めるもの-1	自然環境、気候風土と建築のかたちの関係を学ぶ。	予習: 次回の内容について調べておくこと(2時間) 復習: レポート提出に備えて授業ノートを整理するとともに、関連資料を収集しておくこと(2時間)
第3回	建築のかたちを決めるもの-2	建築材料・構法・技術と建築のかたちの関係、建築のスケール感の重要性を学ぶ。	予習: 次回の内容について調べておくこと(2時間) 復習: レポート提出に備えて授業ノートを整理するとともに、関連資料を収集しておくこと(2時間)
第4回	建築の構成要素-1	建築の屋根の種類、機能、形態、気候風土との関係を学ぶ。	予習: 次回の内容について調べておくこと(2時間) 復習: レポート提出に備えて授業ノートを整理するとともに、関連資料を収集しておくこと(2時間)
第5回	建築の構成要素-2	建築の開口部の種類、機能、形態、気候風土との関係を学ぶ。	予習: 次回の内容について調べておくこと(2時間) 復習: レポート提出に備えて授業ノートを整理するとともに、関連資料を収集しておくこと(2時間)
第6回	気候・気象と建物	気候条件、太陽・風・気温・湿度などの気象要素を制御した建物の紹介と制御法を学ぶ。	予習: 次回内容について調べておくこと(2時間) 復習: 授業ノートの整理(2時間)
第7回	室内環境を制御する建物の仕掛け	安全で快適な室内環境をパッシブ制御およびアクティブ制御する際の、建物の仕掛けとその働きを学ぶ。	予習: 次回内容について調べておくこと(2時間) 復習: 授業ノートの整理(2時間)
第8回	建築環境シミュレーション(1)	近年、建築設計においてシミュレーションが普及しつつある。本講では、最新のシミュレーション技術の動向について、概要を紹介する。	予習: 環境面からみた建築設計について調べておくこと(2時間) 復習: 本講義で紹介したシミュレーション技術の確認(2時間)
第9回	建築環境シミュレーション(2)	近年、建築設計においてシミュレーションが普及しつつある。本講では、最新のシミュレーション技術の動向について、概要を紹介する。	予習: 環境面からみた建築設計について調べておくこと(2時間) 復習: 本講義で紹介したシミュレーション技術の確認(2時間)

第10回	構造の種類	建築物を支える構造体には、どのような種類があるのかを学ぶ。	予習: ガイダンスのノートを見直しておくこと(2時間) 復習: 構造体の種類を調べる(2時間)
第11回	構造の種類と地震時の被害	構造体はどのように造られたのか、震災ではどのような被害があったのかを学ぶ。	予習: 構造体の種類を確認しておくこと(2時間) 復習: 構造体の造られ方を調べる(2時間)
第12回	各種構造の構造原理	鉄筋コンクリート構造および鉄骨構造の構成、力の流れ、構造原理を学ぶ。	予習: 構造体の造られ方を確認しておくこと(2時間) 復習: 各種構造の構成を調べる(2時間)
第13回	各種構造の構造設計法	各種構造の構造設計法の基礎を学ぶ。	予習: 各種構造の原理を確認しておくこと(2時間) 復習: 各種構造の構造設計法を確認する(2時間) 第11～14回の内容を関連づけて体系的に理解すること。(3時間)
第14回	まとめ	最近の建築の話題作やプロジェクトの紹介を通して、全体のふりかえりとまとめを行う。	復習: 紹介した事例について自分でさらに調べておくこと。(3時間) 第1～14回の重要事項を体系的に整理し理解の定着に努めること。(6時間)

【ミニマム・リクワイアメント】

以下に示す到達目標(1)～(5)について、下記の「評価方法」に従ってはかった達成度が総合して60%を満たしている(「成績評価基準」が「D」である)。

到達目標

【到達目標】

- (1) 建築の「用・強・美」の意味、すぐれた建築とは何かを説明できる。(第1～14回)
- (2) すぐれた建築をつくるうえで設計が果たすべき役割と意義を説明できる。(第1、14回)
- (3) すぐれた建築をつくるうえで建築計画が果たすべき役割と意義を説明できる。(第2～5回)
- (4) すぐれた建築をつくるうえで環境制御が果たすべき役割と意義を説明できる。(第6～9回)
- (5) すぐれた建築をつくるうえで構造が果たすべき役割と意義を説明できる。(第10～13回)

評価方法

- ・平常点(25%)、講義期間中に出席する3課題のレポートの内容(75%)で総合評価する。
- ・平常点は、毎回授業の最後に提出する小課題の記入内容で評価する。
- ・毎回出席するレポートにより、到達目標(1)を達成しているかを判定する。
- ・計画、環境、構造の各分野から出席する3課題のレポートの内容により、到達目標(2)～(5)の達成度をはかる。

成績評価基準

【欠格条件】

- ・到達目標(1)を達成できない場合、本単位を修得できない。
- ・到達目標(1)の達成度は、小課題により判定する。

【成績評価基準】

到達目標(1)を達成している場合に限り、到達目標(2)～(5)の達成度を判定する。
A: 定期試験、到達目標項目について、すべてを総合して平均90%以上の達成度で実施できている。
B: 到達目標項目について、すべてを総合して平均80%以上90%未満の達成度で実施できている。
C: 到達目標項目について、すべてを総合して平均70%以上80%未満の達成度で実施できている。
D: 到達目標項目について、すべてを総合して平均60%以上70%未満の達成度で実施できている。
F: 上記以外。

教科書

参考書

	書名	著者名	出版社名
1.	建築計画基礎	吉村英祐 他	学芸出版社
2.	建築設計演習1 基礎編: 図法から空間へ	寺地洋之 他	鹿島出版会
3.	構造用教材	日本建築学会 編	日本建築学会
4.	図解住居学5 住まいの環境 第二版	佐藤真奈美 他	彰国社
5.	全面改訂版 建築設計資料集成 [環境]	日本建築学会 編	丸善

受講心得

【フォローアップ期間】

全回授業の復習を自主的に行うこと。

【受講心得】

- ・これから学ぶすべての専門科目に関心を持ち、常に相互の関連を考える習慣を身につける第一歩とすること。
- ・本授業では予習より復習が大切である。授業時間以外の学修時間には、配布資料等をもとに関連事項を自主的に調べるなど、理解の定着に努めること。
- ・レポートを返却するので、それらを活用し理解を深めること。

オフィスアワー

[吉村] 木曜日12:30～13:15(場所: 2号館5階 吉村教授室)
[宮内] 木曜日17:20～17:40(場所: 2号館4階 宮内教授室)
[河野] 月曜日5限(場所: 2号館5階 河野准教授室)
[今川] 月曜日5限(場所: 2号館5階 今川助教室)

実践的教育

【実践的教育】

設計事務所での意匠設計の経験を持つ教員がその実務経験を活かし、美しく機能的で安全・快適な、環境負荷が小さい建築をつくるための設計・計画手法、環境制御技術、構造技術などの概要を講義する。